



2013 北海道トレセン U-14 前期キャンプ

【報告者】 中町 正樹

2013年4月12日～14日

会場：札幌サッカーアミューズメントパーク
札幌市東雁来公園

公益財団法人
北海道サッカー協会



1 事業の概要

4月12日(金)～14日(日)の3日間、東雁来公園サッカー場・SSAP・コンサドーレ札幌東雁来グラウンドにて北海道トレセンエリートキャンプU-14を実施した。選手は、1月のU-13トレセン交流大会に参加した各ブロックの選手の中から、19名(FP16名・GK3名、うち怪我のため1名辞退)を選考した。

今回のキャンプでは、各選手のサッカー理解を深めるとともに、5月に行なわれるナショナルトレセンU-14東日本前期の選手選考を目的に、トレーニングを2セッション、HFAU-13エリートとコンサドーレ札幌U-15とのマッチを実施した。



2 トレーニング & マッチ

(1)ビルドアップ(12日PM)

『数的優位を利用してボールを前に運ぶ』ことを目的に、トレーニングを行なった。まず、GK+DFで相手FWを置き去りにして、前方へボールを運ぶことを共有しようとした。そのために、CB・SBとも相手の位置を観て、幅や深みを考えたポジシ

ニングを意識させた。さらに、攻撃の優先順位を狙いながらも、急がずに相手選手が少ないところを味方同士で共有して、ビルドアップしていこうとした。しかし、予測・準備をしていないために、ポジション取りが遅かったり、コントロールをとりあえずしてからプレーを判断したりすることが多くみられ、目の前の相手のプレッシャーを回避するだけで、選手同士でイメージを共有することができなかった。

北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
和歌山国体(2015)までには優勝を！！

(2) トレーニングマッチ

vsHFAU-13エリート (13日AM)

体格やランニングスピードで上回っているので、やや余裕があるであろう相手にしっかりとDFラインからビルドアップしていくことを目的に、HFAU-13エリートとのマッチを行った。

しかし、前日のトレーニングで共有されていないことが多く、また、プレッシャーに対して余裕がなくなってしまい、意図的にボールを動かして数的優位を作ることができず、結局体格・ランニングスピードに頼ってしまう内容になってしまった。北海道トレセンとして招集しているキ

ャンプで、このような内容になってしまったのは、非常に申し訳なく感じている。



(3) ディフェンス (13日PM)

『サイドにボールを追い出してボールを奪う』ことを目的に、トレーニングを行なった。

中央のボランチやFWへのくさびのボールを入れられないようにしながら、ボールをサイドに出させて、数的優位を作ってボールを奪うことを共有しようとした。そのために、マークだけを捕まえるのではなく、マークとスペースの両方を管理したポジショニングと、状況に応じてプレッシャーに行く・行かないの判断をすることを意識させた。

マークとスペースを管理できるポジショニングについては、毎回キャンプのたびにトレーニングしてきているが、意識してプレーしている選手が少なく、普段から指導されている選手とそうでない選手の差が広がり始めてきていると同時に、コーチングスタッフの指導力不足を痛感した。また、ボールサイドでブロックを形成して崩されない状況で、相手が逆サイドに展開されたときに、逆サイドの選手のポジションが悪くてプレッシャーが間に合わずに、簡単



に数的不利な状況で突破されてしまう場面が見られた。これは、普段チームの中心選手として中央でプレーしている選手がサイドでプレーする機会があまりなく、慣れないポジションでプレーしていることも要因として考えられる。しかし、どのポジションであっても、まず、原理・原則を理解することがこの年代の選手は必要であり、ぜひ所属チームでプレーする際にも、トライしてほしい点である。

(4) トレーニングマッチ

vsコンサドーレ札幌 U-15 (14日AM)

前日のマッチとは逆に、体格やランニングスピード、スキル、原理原則の理解など多くの点で上回っている相手に対して、グループ(チーム)として守備ブロックを形成して、しっかりと守備の体制を作り上げることを目的に、1つカテゴリーが上のコンサドーレ札幌U-15とのマッチを行った。

開始直後はトレーニング同様に素早いサイドチェンジに対応できずに突破されて、失点を重ねてしまった。しかし、スタッフや選手同時のコーチングによって、少しずつ選手間の距離が修正され、正しいポジションからインターセプトできたり、意図的に相手にボールを回させてサイドに追い込んで奪ったりする場面が見られるようになり、選手の対応力の高さを感ずることができた。



(5) ゴールキーパー

ゴールキーパーの専門的な技術面ではトレセン活動の普及もあり、全体的なレベルの向上が見られた。しかし、キャッチングの技術が課題であり、オーバー・アンダーハンドキャッチでは、身体に近いところでキャッチするため、ボールの勢いを吸収できずに、ファンブルする場面が多くみられた。また、ダイビングについても、しっかり踏み切れず、プレーの方向が後ろになり、身体の前方でボールをとらえることができずにファンブルする場面が多くみられた。これは、シューターの状態や状況(位置)に応じた基本姿勢からの動き出し・構えが安定して取れないことが一つの要因であると考えられる。

ビルドアップ時には、ゲーム中サポートを意識して積極的にプレーしており、攻撃の優先順位を理解しながら関わっていた。しかし、パスのタイミングやキックの種類・質に課題が見られ、攻撃の流れを崩さずスムーズなボールの配給は少なかった。また、ディフェンス時に具体性に欠ける指示が多かった。これらの質を高めるには、サッカーの戦術的な理解を深めることが大事だと思われる。

ゴールキーパーの育成については、トレセンでは活動が充実してきているが、日常的には不足している選手も多く、専門的な技術の習得や、フィールドプレーヤーとのトレーニングもしくはゲームでの関わりの点で、戦術理解を図るような取り組みも必要であろう。

3 課題と成果

今回のキャンプでは、1年間の選手の能力の飛躍を多く感じることができた。今回トレーニングした『ビルドアップ』『ディフェンス』のテーマは、グループ戦術、もしくはチーム戦術的な要素を含むものであったが、決して特別なものではなく、個人のサッカーに対する原理原則の理解の積み重ねである。ただ、前述した通り、普段のトレーニングやゲーム環境が、選手の理解度の差となり、ややその差が広がりがつつある。選手個人がそれぞれ持っているポテンシャル・テクニックはどのブロック・地区から来ている選手も、決して低いものではない。HFAスタッフを中心に、ブロック・地区トレセンでの選手の底上げを各チームの指導者と共に目指していきたい。

また、この年代の選手は、将来の可能性を広げるために、多くのポジションを経験させる必要がある。普段チームでプレーしているポジションだけではなく、いろいろなポジションでも原理原則を理解してプレーできる選手の育成が大切である。

そして、今回のキャンプでは、スタッフの指導力不足でイメージの共有が図れないことが多く、選手に混乱を招いてしまうこともあったかもしれない。スタッフ自身も指導力向上を心がけて研鑽する必要性を痛感した。次回は、各ブロックから召集されたラージグループでのキャンプになるので、今回のキャンプでの課題をエリートスタッフがブロックに持ち帰って、ブロック・地区の選手の向上を目指していきたい。

最後に、今回のキャンプを実施するにあたり、派遣や運営などに協力して下さった関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

